

2026（令和8）年度 教養学部地域社会学科 学校推薦型選抜（一般）講評

1. 出題の意図

課題文は、松島斉著『サステナビリティの経済哲学』（岩波書店、2024年）より出題した。本書は、これまでの経済学の問題や考え方についての歴史的発展の経緯を前提として、現代社会における様々な問題、特に環境破壊や社会的不平等、国際的対立などの経済成長の弊害を指摘している。経済学がこれらの問題について効果的なアプローチを行うためには、サステナビリティの概念が重要であることを説いている。具体的には、従来の経済学には哲学的な問いがあったはずであり、それが経済学の発展において一部失われてしまった。現代社会の諸問題に対して効果的に対処するためには経済哲学、サステナビリティの観点を再認識することが求められる。本書では、経済学のさらなる発展や現代社会の諸問題に対して効果的なアプローチを示すために、経済学の歴史的発展やその現代的な課題、経済学におけるサステナビリティの重要性などを取り上げたものである。

課題文の引用箇所は「第1章 大義の経済学」の一部である。引用部分は経済学の歴史的発展の経緯やその概念から始まり、現代社会におけるサステナビリティの捉え方について、コモンズの悲劇やフリーライダー問題の例を挙げて説明している。近年、様々な場面でSDGs（持続可能な開発目標）という言葉が耳にすることが多い。学術的な場面だけではなく、企業や政府、さらには教育現場でも重要なテーマとして扱われている。確かにSDGsは重要なテーマであるが、本質的な概念や意味、経緯などが理解された上で使われていないように思われるケースが散見されることから、その問題を認識して欲しいという意図もある。さらに、課題文で取り上げられるサステナビリティの概念は、地域社会学科での学びに大きく関係することはもちろんのこと、大学卒業後に社会人となってから直面する様々な現代の社会問題に対処する際に重要であることから、本書を課題文として選定した。

なお、課題文で登場するコモンズの悲劇（共有地の悲劇）やフリーライダー問題はやや難しい概念ではあるが、高等学校の必修科目である公共においても登場し、かつ重要なものであることから、課題文における問いとして扱った。

2. 評価のポイント

問1

問1の記述問題では、前提として問いにもあるように「課題文の記述を踏まえて」解答する必要がある。創成期の経済学において確立し、現代の経済学にも大きな影響を及ぼしている「(神の)見えざる手」の概念について、課題文の該当部分を要約して解答することが求められる。個人が利己的な動機で利益を追求することにより、市場競争を通じてまるで見えざる手に導かれるように、社会全体の経済的富の増大に貢献する、という要素をきちんと課題文の該当箇所から抜き出してまとめられているかが評価のポイントである。

問2

問2の記述問題では、問1と同様にこの問題も「課題文の記述を踏まえて」解答することが求められる。問いとしては課題文のキーワードのサステナビリティが抱える問題について問うものである。問いにも書かれているようにサステナビリティの問題はコモンズの問題であると捉えることができることから、コモンズが抱える問題、すなわちコモンズの悲劇の概念やその問題点について、課題文の該当部分を要約して解答する必要がある。コモンズは個々の利用者の利己的な利益追求によって、過剰利用されると共有資源が枯渇するという問題を抱えている、という説明をきちんと要約し抜き出せているかが評価のポイントである。

問3

問3は、読解および論述問題である。前半部分の読解は筆者が指摘するフリーライダー問題を課題文の記述を踏まえた上で簡潔にまとめることが求められる。フリーライダー問題とは、ある個人または団体が、他者が負担するコストや努力にただ乗り（フリーライド）して、他者による社会貢献を無償で享受しようとする状態のことである。結果として、個人や団体は社会問題の解決に自ら進んで貢献するインセンティブを失ってしまう。これらの記述を正確に抜き出し簡潔にまとめた上で、後半部分の論述問題にうまく結びつけられるかが評価のポイントである。

後半部分は、上記で説明したフリーライダー問題を踏まえた上で自分にとって身近なフリーライダー問題を挙げ、これまで学習してきた知識、経験、体験などに基づいて解決策を論理的に展開できているかが評価のポイントである。解決策については課題文にも記述があるオストロムの原則を参考にした上で論述しているか、さらに前半部分で説明したフリーライダー問題の概念をきちんと理解した上で身近な例を挙げているかについても重要なポイントである。

3. 採点講評

問1

問1については課題文の記述を抜き出してまとめるものであるため、概ね良く出来ていた。しかし、見えざる手の説明において「利己的な動機が社会の富の増大につながる」と「社会的な大義も富の増大につながる」という真っ向から矛盾する内容が書かれている解答も見られた。概念としては少々難しいこともあるが、課題文に道徳的・社会的な大義を追求することは社会的善にとってマイナス、という記述があるため、減点の対象とした。課題文の記述と論理的な矛盾がないか確認した上で解答する必要がある。

問2

問2も問1と同様、課題文の記述を抜き出してまとめるものであるため、概ね良く出来ていた。コモンズの抱える問題については、課題文のコモンズの悲劇に関する記述を参考にまとめることが求められるが、中には問1の見えざる手に関する記述と混同して解答しているケースも見られ、こちらは減点の対象とした。

また、問2は100字という限られた文字数の中での要約であるため、必要な要素のみを正確にまとめることが求められる。コモンズが抱える問題について簡潔にまとめることが期待されるが、中には

具体的なcommonsの事例を挙げて説明を試みる意欲的な解答も見られたが、限られた文字数で例を挙げた結果、本質的な要素であるcommonsの説明が不足するというケースも少数ながら見られた。評価のポイントでも述べたように、何が問われているかを正確に読み取り、理解した上で解答を作成する力も求められる。

さらに、問1と問2については基本的に本文通りに抜き出してまとめるというものであるが、課題文の記述をアレンジした結果、誤った内容になってしまう解答や文意が伝わらなくなってしまう解答が多く見受けられ、減点の対象となった。文章を正確に読み取って要約する力が求められる。

問3

前半部分の読解はフリーライダー問題について筆者が記述している部分を抜き出し簡潔にまとめれば良いため、正確に書けている解答が大半であった。しかし、後半部分の論述については、出題意図を理解しているかどうかで大きく得点差が出たように思われる。

まず、「あなたにとって身近なフリーライダー問題の例」であるが、前半部分で言及した筆者の記述を踏まえていない不適切な例が散見された。例えば、フリーライダー（ただ乗り）問題の「ただ乗り」という表現に引っ張られたもの（無料で使えるものという例）が見られた。フリーライダー問題は無料で使えるものがすべて該当するわけではなく、commonsの側面を持つということが前提である。そのことを踏まえていない例を挙げているものについては、減点の対象とした。

次に、問いで言及されているオストロムの原則を参考にしていない解決策もいくつか見られた。課題文でもオストロムの原則については取り上げていることから、何らかしらの形で言及する必要がある。確かにこの原則の概念は難しいものではあるが、問3の解答のヒントとなるものであるため、少しでも言及して解答することが求められる。

最後に、上記の内容に関連することでもあるが、課題文の記述を無視した解決策を示した解答も少数ながら見られた。例えば、近年社会問題として挙げられるジェンダー関連の問題、海洋ごみ（プラスチックごみ）の問題、インターネット上の映像コンテンツにおける著作権の問題などを例示していた。例自体に誤りというわけではなく、課題文で言及されているフリーライダー問題の解決策になっていないということが不適切であり、こちらも減点の対象とした。身近な例としては（公共）図書館の蔵書、警察、消防、救急などの公共サービス、地域のごみ捨て問題（集積場の維持管理、自治体での資源回収）などが挙げられる。さらに言及すれば、高校生の生徒会活動、部活動、教室の清掃活動などを例に挙げて解決策を提示することも可能である。問1と問2の採点講評でも言及したが、問われていることを正確に読み取り、それに対する解答を示すことが問いをきちんと理解することである。問3は自分がこれまで学んできた知識、経験、体験などを十分に発揮できる問いであるが、出題者から求められているものを読み解いた上で、これまで学んできたことを反映させることが重要なのではないかと考える。